

認定こども園清泉幼稚園における 自己点検・自己評価

今年度の本園の保育、教育全般を総合的に評価し、次年度の教育計画に生かせる方向で記入してください。

《記入方法》

- ◎ A・B・C・Dの4段階評価です。該当する欄に○をつけてください。
- ◎ 項目ごとに、意見・改善策を記述してください。

A:大変良い
B:良い
C:一部検討を要する
D:改善を要する

《教育課程の編成と実施に関する評価》

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育・教育目標	(1) 保育・教育目標の具現化に向け、幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。		○			
	(2) 目標は、園や地域の特色を生かしているか。		○			
	(3) 目標は社会の要請や保護者の願いを反映しているか。		○			
	(4) 目標は前年度の反省を生かしているか。		○			
	(5) 目標は全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。		○			
指導計画	(1) 指導計画は、幼児の実態に即して作成しているか。		○			
	(2) 幼稚園教育要領に基づく指導援助が適切に行っているか。		○			
	(3) 環境の構成を意識した指導の方法や過程を常に工夫しているか。		○			
	(4) 教材・教具を適切に活用しているか。		○			
	(5) 評価結果を基に、指導の改善に努めているか。		○			
教育週集 教育時間	(1) 教育週数を確保しているか。	○				
	(2) 登園・降園時刻と1日の流れは現行でよいか。	○				
行事	(1) 行事の種類や実施回数は適切か。		○			(1) (2) コロナウイルスの影響で行事を縮小、中止にする事が多かった。行事についてはコロナ禍でもできる内容を今後は検討していきたい
	(2) 行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。		○			
	(3) 乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。		○			
	(4) 計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。		○			
	(5) 保護者の願いや意見を取り入れているか。		○			

《教育課程の編成と実施を支える諸条件に関する評価》

項目	内 容	評 価				意見 ・ 改善策
		A	B	C	D	
経営・組織	分掌・体制	(1) 能率的、合理的な運営組織になっているか。			○	職員の入れ替わりや未満児の途中入所に伴って配置替えがあり、当てる仕事の手配や割り当てが変更になり適切に行えない部分があった。
		(2) 職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。			○	
		(3) 職員の配置は適材・適所か。			○	
		(4) 係や仕事の分担・割り当ては適切か。			○	
	運 営	(1) 各種会議を適切かつ効率的に進めているか。		○		
		(2) 教職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく園の運営に関わっているか。		○		
		(3) 打合わせ回数、時間、内容は適切か。		○		
	学 年・学級経営	(1) 学年・学級目標は、保育・教育目標や重点目標に基づいて設定しているか。		○		(4) コロナ禍で異年齢の活動が行えなかった。コロナ禍でも実施できるような内容を考え活動を増やして行きたい。(預かりの時間では異年齢で活動出来ていた。)
		(2) 学年・学級目標は、幼児の実態に即して設定しているか。		○		
		(3) 学年・学級目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。		○		
		(4) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。			○	
		(5) 意義や趣旨を理解したチーム保育をしているか。		○		
		(6) 評価、資料(諸記録)を集積しているか。		○		
	保 健・安全指導	(1) 学年・学級経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。		○		
		(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	○			
		(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。		○		
(4) 幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。			○			
園 内	(1) 研究主題は、保育・教育目標の具現化につながるものであるか。		○			
	(2) 園内研修の計画・運営は適切か。		○			
	(3) 研究の成果を日常の保育に生かし、幼児の育ちに反映させているか。		○			
	(4) 研究の実践による幼児理解が深まりを見せているか。		○			
園 外	(1) 各種研究会、研修会講習会への参加態勢の充実を図っているか。		○		(1) コロナ禍で外部の研修はオンデマンド式で行っていた。	
	(2) 各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。		○			

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
開かれた幼稚園への 子育て支援の推進	(1) 地域の子育てセンターとして、園庭、保育室等を開放しているか。		○			(4) 保護者を対象とした学習の機会は設けることが出来なかった。 (5) コロナで園開放の日数が少なかつたので次年度はもう少し増やしていき、子育て相談を充実させていきたい。
	(2) 地域に住む子ども同士、あるいは親子と一緒に遊ぶことができるような場の設定を行っているか。		○			
	(3) 地域の実態を捉え、計画的な預かり保育を行っているか。		○			
	(4) 「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。			○		
	(5) 教職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。				○	
	(6) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。		○			
情報の発信	(1) 園だより・学級通信、ホームページ等で園の情報を発信しているか。		○			
	(2) 行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や他校種に対して周知しているか。		○			
外部評価	(1) 園評議員の意見を園運営に反映しているか。				○	
	(2) 地域や保護者の意見を園運営に反映しているか。		○			
情報の処理	(1) 幼児や保護者に関する個人情報に適切に取り扱っているか。	○				
	(2) 公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。	○				
	(3) 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。	○				
施設・設備	(1) 園舎・園庭の施設・設備の安全点検を計画的に行っているか。	○				
	(2) 遊具・用具・教材等を、活用しやすいように整理・保管しているか。		○			
	(3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。	○				
	(4) 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。		○			

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
経出 理納	(1) 各種会計を適正かつ適切に処理しているか。	○				
開かれた幼稚園ひまわり	学校間交流・連携	(1) 他校種との年間交流計画は、保育・教育目標や話題に添ったものになっているか。		○		(4) コロナ禍で学校との交流が出来なかった。幼・保・小の交流会は実施できなかった。参考になった。小学校との引継ぎも行った。
	(2) 他校種の幼児児童生徒と触れ合う中で、幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・指導を行っているか。		○			
	(3) 指導者どうしが、打合わせや事前研修・合同研修を行い、互いの教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っているか。		○			
	(4) 参観や指導に参加するなどして、他校種の教育を理解しているか。		○			
	(5) 日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。		○			
	家庭・地域社会との連携	(1) 参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日等を設定しているか。			○	(1) コロナ禍の為参観時間を制限して人数制限をしていた。 (4) コロナ禍の為地域との交流も難しかった。次年度に検討していきたい。
	(2) 保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。			○		
	(3) 幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。			○		
	(4) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。			○		

※今年度も、新型コロナウイルス感染症予防の為、例年通りの運営が難しく、状況によって延期、中止、規模の縮小などを余儀なくされた。
保護者の皆様には、沢山のご理解、ご協力を頂き運営していくことができた。

令和3年度 自己評価報告書

令和4年6月10日
学校法人 明星学園
認定こども園 清泉幼稚園

《1. 本園の教育目標》

【幼児の創造性を育て、健康で心豊かな人間形成の教育】

- ◎よく遊び よく学ぶ
- ◎個性と自主性を育てる
- ◎創造の芽生えと豊かな情操
- ◎友達関係の深まりから社会性を育てる

《2. 本年度重点的に取り組む目標・計画》

幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、教職員一同、子ども達ひとりひとりの「個性」を伸ばし、成長しようとする心のサポートを大切に、各学年の年齢や能力に応じたさまざまな活動の機会を与え、仲間との触れ合いや環境を活かした自然との触れ合いの中で健全な成長・発達を促せるようにする。

《3. 評価項目の達成及び取組状況》

評価項目	評価	取組み状況
幼稚園教育理念や子どもの実態に適した教育課程に基づいての計画性や保育教育のあり方	B	コロナ禍だった事で、できるだけ戸外活動を取り入れた。季節ごとに合わせ、自然とふれあう事が出来た。今までの反省などを活かした保育が出来た。今後もコロナ過での活動を考え取り組むようにしたい。
幼稚園教育要領に基づいた指導方法および幼児への対応	B	引継ぎや保育者同士で積極的に話し合い、一人一人に合った保育を行うことが出来た。細かい事でも職員間で情報を共有しながら、前年度の教育を振り返り指導計画を立てるようにした。様々な教材を活用し、まわりの自然環境や教材を生かしたより豊かな教育ができるよう職員への指導が必要とされる。
幼稚園の流れおよび教育週数	A	1日の流れは学年ごとにカリキュラムがたてられておりスムーズに園生活を送れていると感じる。コロナウイルスの影響により学級閉鎖になる事があったが、日頃から感染予防対策をとっており、他に広がる事がなかった為、教育週数には支障がなかった。
行事計画や実施・実態について	B	年間行事を見直し、カリキュラムに余裕ができ日々の保育に取り組みやすかった。コロナ禍の為、行事のあり方を考慮し、短時間で行ったり、内容を配慮し行ったが、まん延防止の時期や感染状況の増加に伴い、感染防止対策が十分にとれない行事に関しては中止せざるおえなかった。今後は感染状況をみながら、保護者の意見を聞き行事を計画できると良い。それぞれの行事の反省を次年度につなげていく必要がある。

運営・学級経営・組織、体制について	B	<p>補助の先生が増えたことにより視野を広げて保育をすることができるようになったが、職員の勤務時間の違いから打ち合わせの時間が短く不足している部分が見られたので、改善策を考えた。コロナ禍で行事や自由遊びで異年齢での交流ができず、今後はコロナ禍でも異年齢で過ごすようなやり方を考える必要がある。</p> <p>安全面では避難訓練は毎月に行っている。毎月テーマを設け、避難の仕方を職員間で確認している。</p>
園内研修・園外研修	B	<p>コロナ禍で研修機会が少なく、オンデマンドやZoomでの研修となったが研修先の移動時間の短縮する事や園内研修する事ができ、時間を有効に使う事ができた。</p> <p>園内では毎週の会議の中で職員同士で話し合う場を設けているが、代表で研修に行った先生からの情報を共有したり、オンデマンドの研修を引き続き取り入れていくと良い。</p>
子育て支援・地域との繋がり・情報発信	B	<p>ホームページや園だより、ブログ・クラスだより等で幼稚園の様子を発信していた。</p> <p>幼稚園解放では、季節に合わせた遊びを設定し、地域の親子が参加出来るようにした。</p> <p>解放日を行う季節や日程を検討しても良いと感じる。</p> <p>各専門機関との連携を取り、保護者にも情報を共有し子どもの成長に向けて取り組みを行っていた。 幼児の家庭や、守秘義務を守り、適切に管理されている。</p>
個人情報等の管理	A	<p>幼児指導要録の作成についても適切な時間、方法で作成できている。</p>
園舎・園庭の安全管理	A	<p>園庭の遊具等の点検を定期的に行い、危険がないように設備、管理していた。遊具が新しくなった事で、遊び方の確認や子ども達へのルールを知らせ、危険のないよう遊ぶ事ができた。</p> <p>室内玩具は年齢に応じて、出すことを職員間で話し合い、成長に応じて。定期的に確認を行う必要がある。避難訓練の際に、器具の場所確認や点検を行っていた。</p>
他校種との交流	B	<p>小学校との繋がりを大切に情報交換や、引き継ぎなどに向けて取り組みを行っていた。</p> <p>コロナ禍で給食体験や学芸会などの行事で訪問ができなかったので、子どもたちへ就学への期待付けを積極的に行った。道の駅へ七夕やクリスマスの飾り等で積極的に取り入れる事で、コロナ禍で少しでも地域との繋がりを感じる事ができた。</p>

《4. 総合的な評価結果》

評 価	理 由
B	各年齢に応じた教育・保育内容に適したより具体的な環境構成を整えるようにする。特に、コロナ禍で異年齢活動及び地域との関わり、そして外遊びの環境を考える必要がある。教職員が自己評価を実施したことにより、自園や自分自身の保育内容を一人一人振り返り自分の保育を見つめなおす事ができた。今後、子どもの遊びの主体性を更に追及し、充実を図っていきたい。また、これからも続く事になるコロナ禍で新たな課題も出てくる中で、職員間で、更なる教育内容の充実、環境の整備、教職員の資質の向上に努める必要がある。

《5. 今後取り組む課題》

課 題	具体的な取り組み方法
各年齢に合わせた環境構成を整える。	各年齢に応じた教育・保育内容に適したより具体的な環境構成を整えるようにする。特に、外遊びの工夫を考える必要がある。
コロナ禍で安全に子ども達に教育環境を整え遊びの体制を整える。教職員の資質向上。各学年に合わせた遊びの工夫。	毎日の健康チェック。消毒作業を通して、コロナウィルス対策を実施し、子ども達の体調の変化に一早く気づけるよう、看護師と連携をとり、子ども達が安全・安心の中で保育が行えるよう、環境を整える。日々の報告・連絡・相談がしっかりできるよう、職員間で話し合いの場を設け、共通理解を深めていく。今までの清泉幼稚園としての教育理念を持ちながら認定こども園としての時代のニーズに応えるよう対応し、より充実した園生活を送れるよう、そして、遊びの工夫を考え体制を整えていく。

《6. 学校関係者の評価》

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められている。

《7. 財務状況》

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

◎評価結果の表示方法

- A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが、成果が十分ではない
D 取り組みが不十分である